

平成22年4月23日

国土交通大臣 前原誠司 様

九州住民ネットワーク 事務局長
路木ダムを考える河浦住民の会会員
石木川の清流を守り、川棚川の治水を考える会会員
原 豊典

申し入れ書

1. 補助金適正化法にもとづき、熊本県営ダムである路木ダム、長崎県営ダムである石木ダムに対する平成22年度の国からの補助金交付を取りやめること。
2. 補助金適正化法6条に基づき、熊本県営ダムである路木ダム、長崎県営ダムである石木ダムに対する平成22年度の国からの補助金交付が適正で有るかを判断するために、現地調査を含む厳格な審査を実施し、申し入れ者に対し、その結果を文書回答すること。

理由

「(補助金等の交付の決定)

第6条 各省各庁の長は、補助金等の交付の申請があつたときは、当該申請に係る書類等の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、当該申請に係る補助金等の交付が法令及び予算で定めるところに違反しないかどうか、補助事業等の目的及び内容が適正であるかどうか、金額の算定に誤がないかどうか等を調査し、補助金等を交付すべきものと認めたときは、すみやかに補助金等の交付の決定(契約の承諾の決定を含む。以下同じ。)をしなければならない。」

法律では、上記のごとく、「交付の申請があつたときは」と規定されており、申請は平成22年4月1日に行なわれているが、現在まで現地調査は行なわれていないことは九州地方整備局が回答している。現地調査の必要性については、添付の資料を一瞥すれば明白である。内定通知は撤回もしくは、現地調査等に基づいて変更すべきである。

平成22年4月23日

国土交通省九州地方整備局長 岡本 博 殿

九州住民ネットワーク 事務局長

路木ダムを考える河浦住民の会会員

石木川の清流を守り、川棚川の治水を考える会会員

原 豊典

申し入れ書

1. 同日付の大臣宛申し入れ書を迅速に大臣に提出し、申し入れ内容が、真摯に実施されるよう、また、文書回答を申し入れ者に手渡すよう取り計らうこと
2. 貴官下職員 秀徳典穂課長補佐の申し入れ者に対する対応(4月16日)は不適切なものがあつたので、是正指導すること。その結果を申し入れ者に報告すること。

理由

1. について

- ① 秀徳典穂課長補佐の回答によれば、昨年8月頃、本省治水課職員2名と共に、路木ダム、石木ダムなどを視察した、とのことであるが、これは今回交付申請の半年以上前の視察であり、補助金適正化法に基づく補助金交付申請に対応する現地調査ではない。
- ② 視察内容においても、右岸と左岸の高さの違いも認識しておらず、車の中から見た、とのことであり、到底現地調査とは言えないレベルのものである。
- ③ 昨年8月は旧政権の時点であり、新政権のもとで、ダム見直しが始まっている現在において、その視点から現地調査を行なうべきである。

2. について

- ① 路木ダム、石木ダム事業に関する申し入れ者の質問に対し「何でそんなことを答えなきゃならないんだ」などと、横柄かつ公務員の自覚に欠ける発言があつた。
- ② また、路木川の視察(昨年8月頃実施とのこと)に関し、「上から下までしっかりと視察した」と言つたかと思えば、後では「車の中から見た」という有様で、回答がその時その時でいいかげんである。
- ③ 申し入れ者が「路木川の護岸は越水するとされている右岸は左岸より60センチも高く、洪水は起きない」と述べたことに対し、「路木川は護岸は無い、掘り込み型なのだから」などと自分の知識をひけらかすような回答姿勢であつた。これも「堤防は無い」というべきことであろうが。
- ④ このような一知半解の知識をもてあそんで(名刺には技術士の資格が記載されている)国民を愚弄するような職員は局長の姿勢を見て育つたとも言えるので、厳しく自省されたい。